



空洞を埋める人達

久保 日向太

マレーシアで天然ゴムは、世界第7位の生産量を誇る主要産業の一つだ。「最近ではゴム農園で働くのはバングラデシュ人かネパール人ばかり。きついし大変だからマレーシア人は働かない。」訪れた村を案内してくれたおっちゃんが言っていた。マレーシアにおいて外国人労働者の方が就く仕事は、大半が所謂3D(Dirty Dangerous and Demanding)らしい。日本の外国人技能実習生問題をみても、経済発展に伴うキツイ産業の空白を埋めるのは、決まってより貧しい国の人々だ。

マレーシアは、1980年代から韓国や日本から学び、発展の基盤とする「東方政策」を進めてきた。そんなマレーシアから帰ってきた今、「海外からの労働者に頼らないと成り立たない暮らし」を享受している私たちと“豊かな”日本を見つめ直した時。本当に、マレーシアに、アジアに、世界に誇れる「ジャパン」と言えるのだろうか？そんな疑問が頭の中をグルグルと未だに飛び回っている。日本も含めて、諸手をあげて経済発展を喜ぶだけでなく、その陰にあるきつい産業の抑圧移譲をいかに解決するか。今回の研修を通して、将来は国際支援に携わりたい私の喉元に鋭く突き付けられた課題である。